

Coimbra

について



コインブラ

かつてコインブラ（Coimbra）はケルト族に占領されていましたが、ローマ帝国による植民地化の過程でこの地域に文化的に大きな変革が起きました。ローマ人がここを占領した痕跡は、ローマの都市のフォーラム、キウィタ・アエミニウム（Civita Aeminium）のポルティコ（柱廊）の上に建てられたマシャード・デ・カストロ美術館（Museu Nacional Machado de Castro）に収められているさまざまな考古学的遺産に今も見ることができます。ローマによる支配の後、586年から640年には西ゴート族が到来し、町の名称をエミニオ（Eminio）に変更しました。711年にはムーア人とモサラベ人の町になりました。1064年、町はキリスト教徒であるカスティーヤのフェルナンド1世が占領し、モサラベのセスナンド（Sesnando）によって統治されました。

ドウロ川（Rio Douro）の南で最も重要な都市であるこの町には、かつてポルトガルの初代国王であり、この地で生まれたドン・アフォンソ・エンリケス（Dom Afonso Henriques）の両親、ドン・エンリケ（Dom Henrique）とドナ・テレサ（Dona Teresa）がしばらくの間、居住していました。1131年にこの町をポルトガルに併合したのはこの国王です。旧カテドラル（Sé Velha）や、サン・ティアゴ、サン・サルヴァドル、サンタ・クルス（Santa Cruz）の各教会など、宗教の権威やこの地に拠点を構えたさまざまな宗教団を表す歴史的建造物が建てられたのはこの時期です。

コインブラはペドロ1世（D. Pedro I）（1357～1367年）と宮中女官、ドナ・イネス（Dona Inês）との悲恋の舞台となりました。この恋愛はポルトガルがカスティーヤの支配下に入る危険性をはらんでいると考えたアフォンソ4世（D. Afonso IV）の命令により、イネスは処刑されました。詩人や作家のインスピレーションをかき立てるこの物語は今も、この町の豊かな遺産の重要な部分を占めています。

コインブラは、中世時代にはポルトガルの首都でしたが、ルネッサンスの時期にジョアン3世（D. João III）（1521～1557年）が大学をこの町に恒久的に移転することを決定し、公式の教育の代りとなるものとして多数のカレッジが創設されると、ここは知識の町に変わりました。

17世紀にイエズス会が到来し、即座に新カテドラル（Sé Nova）を建設することによってその存在を明らかにしました。翌世紀になると、ジョアン5世（D. João V）（1706～1750年）は国王による事業として大学などコインブラの建築物の一部を拡充しました。ジョゼ1世（D. José I）（1750～1777年）も特に教育分野において、閣僚のポンバル侯爵（Marquês de Pombal）の尽力を得ていくつかの変更を行いました。

19世紀初頭に、フランスの侵攻やポルトガルの解放のための戦いにより混乱の時期が始まりますが、コインブラに大きな動きをもたらすことはありませんでした。これ以降、ポルトガルの典型的な大学都市に変革をもたらしたのは学生でした。

コインブラで見つけた遺産についてさらに詳しく知るためには、いくつかのルートに沿って散策することをお勧めします。19世紀までの町の配置に従って、アッパー・タウンを通るルートとダウン・タウンを通るルートの2通りのルートで散策することをお勧めします。